

日本文学基礎研究 III (前期)

2 units 2nd-year(1st semester, intensive), 3rd-year(1st semester, intensive)

Koji Toba · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES, Satoshi Kinugawa · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

Target) 1950年代は、商業紙誌、サークル誌、映画、テレビ、演劇、絵画、紙芝居、幻灯など、様々なメディアで「記録」が展開された時代であった。ここでは、必ずしも「マス(大量の)」受け手に向けられたものではないが、「マス(大衆)」としての受け手を志向したメディアにおける「記録」を紹介しながら、その今日的意義を考えてみたい。

Outline) プリントや映像を教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

Keyword) *literature, film (movie)*

Relational Lecture) “日本文学演習 III”(1.0)

Notice) 授業時に発言を求めるので、指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと。

Goal) 豊かな「記録」の遺産に触れ、客観的で中立なものという既成概念を超えた「記録」の可能性を理解できるようになる。

Schedule)

1. ガイダンス
2. 1950年代概論
3. サークル詩の「記録」
4. 生活記録運動と幻灯
5. 国民的歴史学運動と紙芝居
6. ルポルタージュの実験
7. ルポルタージュ絵画の展開
8. 岩波映画のドキュメンタリー
9. テレビドラマと「記録」(1)
10. テレビドラマと「記録」(2)
11. ダムをめぐる「記録」(1)
12. ダムをめぐる「記録」(2)
13. ダムをめぐる「記録」(3)
14. 基地をめぐる「記録」
15. まとめ
16. レポート

Evaluation Criteria) 出席確認を兼ねた毎回の小レポート、授業内での質疑応答(予習の確認)、授業内での議論への参加、期末レポートにより総合的に評価

する。

Re-evaluation) 行わない。

Textbook) 特に指定しない。教材として映像やプリントを使用する。

Reference) 鳥羽耕史『1950年代「記録」の時代』(河出書房新社, 2010年)など。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218935>

Contact)

⇒ Toba (研究室移転中のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。), toba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 授業時間の直後)

⇒ Kinugawa (+81-88-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL